



この時期、各地のキャンプ
場は子どもたちの歓声に包ま



子どもたちと手づくりイカダで池を往復（上）、竹を使って生用品を製作（左下）、テント張り（右下）

活動研究センター
（NPO法人七塚原自然体験）

最近は、テレビのニュースで『寝苦しい夜続く！』〇〇日間連続熱帯夜とか、冬になると『今年も暖冬傾向。地球温暖化の影響か？』といった話題を目にするようになりました。気象庁では「日最低気温が25℃以上」を『熱帯夜』、「日最低気温が0℃未満の日』を『冬日』として統計をとっています。今回は、この熱帯夜と冬日の経年変化に着目してお話をします。

寝苦しい夜は倍近く増加

厳しい朝の冷え込みは激減



③ 熱帯夜と冬日の経年変化

できれば前回と同様に広島地方気象台のデータを使って話を進めようと思ったのですが、広島地方気象台が1988年に江波南から中区八丁堀に移転しているため、連続的に長期的に見られる呉特別地域気象観測所のデータを用いて話をします。

下図は呉特別地域気象観測所の統計値の経年変化を見たもので、熱帯夜を表しています。グラフの長期的な変化傾向を示す灰色の直線に

着目すると、1960年代には熱帯夜は10日前後でしたが、最近では30日前後になっていることが分かります。呉特別地域観測所は海の近くにあり、夏場でも比較的涼しい気候なのですが、50年前と比較して寝苦しい夜が

倍近くまで増加しているのです。一方、冬日は50年前には30日近かったものが、最近では数日にまで減少しています。筆者が小学校生であった1970年代のときには、道路の窪みなどに張っていた氷をよく

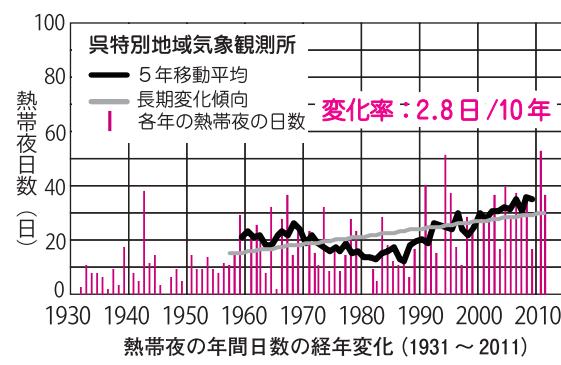
けりながら登校したのですが、最近はそういった光景は見かけなくなりました。つまり、最近は冬季に厳しい朝の冷え込みの回数が減少してきたと言えそうです。このように気温データの長期的变化からだけでなく、統計的に処理したデータからも、現在進行中の地球温暖化の姿みることができます。

また、気象庁では将来の気温をコンピュータを使って予想しており、現在の気候で「暖冬」とされる冬の平均気温を

2°C前後も上回るような暖かい冬が、今世紀末の気候では

毎年のように出現すると予想しています。

（広島地方気象台 観測予報課 岡崎 賢治）



（広島地方気象台 観測予報課 岡崎 賢治）

環境を考える子どもを育成

クラフトやイカダ作りを体験



③ 夏のキャンププログラム

年やっています。教育目的の学習キャンプ、レジャー目的の家族キャンプ、どのキャンプも安全でちょびり収穫のある楽しいキャンプであつてほしいと思います。

今回は、高原の家七塚で長年やっています。六泊七日の自然体験キャンプについて、ねらいとプログラムを紹介します。小学校三年生～六年生の任意の集団のキャンプです。

① コミュニケーション力をつける② 自分たちで活動し、お客様にならないキャンプを実践する③ 自然に触れ自然に学び環境について考えられる子どもの育成を目指しています。

当協会の評議員である務中昌氏の著書『俳句セラピー』の中から、健康を題材にしたものを十二回シリーズで掲載。俳句で元気に、をテーマに人間同士の交流や健康増進にかかる話を毎回紹介しています。

夏バテ防止策の第一条件は夏バテダウン、つまり「調子前に手を打つのが一番なのである。

夏バテの有効な対策を考えるとすれば、本格的に暑くなると手を打つのが一番なのであります。

夏バテ防止策の第一条件は夏バテダウン、つまり「調子前に手を打つのが一番なのであります。

夏バテの有効な対策を考えるとすれば、本格的に暑くなると手を打つのが一番なのであります。

夏バテの有効な対策を考えるとすれば、本格的に暑くなると手を打つのが一番なのであります。